須賀川市立義務教育学校「稲田学園」令和３年度学園だより

稲雲（とううん）　第８号

令和３年８月３０日発行　　発行者：校長 小貫　崇明

○第２学期が始まりました！～充実した８３日間に～

８月２５日（水）より第２学期が始まりました。始業式では校長から、夏休みの児童生徒の活躍や休み中に起きた災害などについて、またオリンピックに出場した選手の活躍を参考に、がんばることや前向きに取り組む大切さについて話をしました。さらに、須賀川市内や近隣の地域でも新型コロナウイルスの感染が広がっていることから、これまで以上に手洗いやうがいを励行し、３密を避け、ディスタンスをしっかりとった生活をすることの大切さについて再度確認しました。

各ブロック代表（３年・７年・９年）のめあての発表(写真左)では、１学期の反省に基づいた具体的な目標が元気よく発表され、一年で一番長い学期、８３日間の２学期が元気よくスタートしました。

○岩瀬地区中学校英語弁論大会

８月２７日（金）に、岩瀬地区中学校英語弁論大会が開催され、本校からは暗唱の部に８年生女子の２名が参加しました。２人とも、暑かった夏休み中に英語科の先生やALT の先生に指導を受けながら、発音や表現力を磨いてきました。その結果、大会では入賞は逃したものの。他校の中３の生徒に引けを取らない立派な発表ができました。

（↑代表の２人の表情豊かな発表）

○引き続きコロナ対策をご家庭でもお願いします！

コロナ対策としてワクチン接種などが進んではいますが、夏季休業期間中に市内の児童生徒３名の陽性が確認されるなど、全国的にも１０歳前後の年齢層の感染者が急増している現状にあり、小中学生の感染拡大が懸念される状況です。感染拡大防止と円滑な教育活動の推進のために、下記の点について特段のご配慮とご協力をお願いいたします。

①　家庭内外における感染防止対策（手指消毒・三密回避等）を従来以上に徹底してください。

②　児童生徒または同居家族等に発熱等の症状がある場合やＰＣＲ検査を受ける予定がある場合は、児童生徒を登校させず十分な健康観察を行ってください。その際、学校への連絡をお願いします。

③　学校以外の活動への参加は、感染状況等を考慮し、可能な限り自粛してください。

④　感染力の非常に強い変異株による感染者が増加しており、誰にでも感染する可能性があることから、感染者やその家族等への誹謗中傷は絶対に行わないでください。

○児童生徒の送迎場所を改善しました

ご存じのとおり、稲田学園付近の道路は、カーブと坂道で見通しが悪く、児童生徒の車による送迎場所で保護者の皆さんにご不便をおかけしております。この度、年度途中ではありますが、稲田公民館の駐車場が完成し使用させていただけるようになりました。１学期末に調査した結果、利用台数のバランスを考え、送迎時の安全確保と混雑緩和を図るため、岩渕公民館駐車場と稲田公民館駐車場を地域で分けて利用していただくこととします。保護者の皆様におかれましては、以下の点に注意しご利用いただきますようお願いします。

① 稲田公民館駐車場については、古戸・稲・松塚方部及び学区外の児童生徒が利用し、岩渕・泉田・保土原方部の児童生徒は今まで通り岩渕公民館駐車場を利用してください。
② 稲田公民館駐車場については、駐車場内の白線・矢印の指示に従い、一方通行でお願いします。**（写真の矢印のとおり、駐車場に入るとすぐに左折し場内を右回りで通行してください。）**
③ 稲田公民館駐車場を送迎で利用した児童生徒は、本校と稲田公民館をつなぐ北側階段を利用してください。

○第２回地域運営協議会～地域とともにある稲田学園～

８月２３日（月）、第２回稲田学園地域運営協議会を実施しました。稲田区長会長様をはじめ、学校評議員、ＰＴＡ関係、幼稚園関係、商工会関係等、総勢１５名の方々に参加していただき、稲田学園の１学期の生活を振り返りながら、コロナ対策や松明制作など２学期の学校運営について様々なご意見をいただきました。コロナ禍のため、短時間での実施となりましたが大変有意義な話し合いをもつことができました。

★言葉と生きる(8)「人は、 人のために強く なれる」

ある大学の先生がこんな話をしていました。「大学生たちだけで山登りをさせると、大学生たちは『しんどい』とか『もうやだぁ』などと弱音を吐きます。しかし、障がいを持つ子どもたちと一緒に山に登ると、一生懸命に子どもたちをサポートし、弱音をまったく吐かないのです・・・」

テレビでパラリンピックの試合を観ていると、様々な障がいを持つ選手の頑張りにもちろん感動するのですが、その選手を支える人たちの動きを見て感動することがあります。今回のパラリンピックでは、日本人最初のメダリストは両腕のない１４歳の水泳選手でした。その選手を介助する人物の動きを見て、私は涙が止まりませんでした。泳いだ後だけでも、体を拭き、車いすに乗せ、マスクを着け、メダルをかけてあげる・・・次から次へと支援が続きます。その支援のやさしさ、そして大変さを振り返っていたら、この言葉を思い出しました。